

平成 30 年度 第 3 回 学校評議員会議事録

日 時 平成 31 年 2 月 14 日 (木) 10:00～

場 所 本校小会議室

参加者 評議員

井 上 美奈子 様 (健康科学大学教授)
太 田 敏 夫 様 (平成 27 年度本校 P T A 会長)
宮 下 俐 様 (富士吉田市立下吉田中学校長)
正 木 啓 子 様 (山角会富士吉田診療所心理室カウンセラー)
宮 下 美佐江 様 (石原会計事務所・主婦)

職 員 校長・事務長・第一教頭・総務部職員 (記録)

1 校長挨拶

本校においても、新たな取り組みが定着しつつあるものの、厳しい言葉が聞こえてきづらくなってきます。そこで、外部の評議員の方々のご意見をいただけるとありがたいです。

2 学校評価について

【資料説明】

学校評価アンケートの資料に基づいて、ご意見をいただいたところですが、改めて何かあればお願いします。

評議員： アンケート方法は「紐付き」か？

校 長： 基本、無記名です。

評議員： 評価の中でも答えたが、先生方の授業に対する工夫の様子が窺えた。保護者もそれを理解した上で、評価をしているようであった。

生徒の「授業を楽しい」と感じる評価が、2 年生で低く出ているが、その「楽しい」の受け止め方に違いがあるのではと感じた。

評議員： 吉高 G P への取り組みは理解できるが、先生方の行う評価が低く出ているのは、先生方が謙遜しているのかなと感じた。実際には生徒の評価が高く出ているので、学校の流れとしては良い方向に向かっていると感じる。

評議員： 評価が高く出ているところを、今後とも引き続き伸ばして行ってほしい。教員と生徒の評価における数字のギャップは、ある意味理解できる。各項目とも実際の数字以上に出来ているのではないかと思う。

義務教育においても、「学び」に対する取り組みを行っているので、高校へと繋がっていくことが、生徒にとっても良い結果に繋がると思う。

評議員： 吉高 G P については、本当に身につけるべき大切なものだという意識が浸透してきていると思う。また高校からの発信が、保護者に伝わっていると感じる。

一方で、教員の達成度が高い点について、スクールカウンセラーとして、生徒の生の声を聞くと若干受け止め方の違いを実感する。

評議員： 生徒の立場からすると、同じ先生の授業を受けても、それぞれ感じ方が違う。保護者の立場からみて、吉高GPについても、生徒としては理解してもまだまだ難しいとは感じている。でも、社会に出てからも必要な力なので、早いうちから意識して指導してもらいたい結果に繋がると思う。

評議員： 吉高GPとしてひとくくりに考えず、一つ一つの力を理解し、意識していくことで身についていくので、今後とも続けていってほしい。

校長： 確かに、真面目な生徒ほど考えすぎて、評価のところで低く出てしまうかもしれない。授業における「楽しい」という表現は、確かに今後検討が必要だと思う。統計資料のわかりづらい部分は、今後検討していく。続けていくことの大切さはわかっているけど、陥ってしまう負の側面も気をつけていきたいと思う。

【生徒の先生方への質問時間は、どう対応しているのかという点に関して】

評議員： 大学では、生徒の質問に充てる時間を区切り、教員の時間を明示している。

評議員： 生徒にとっては、逆に時間が限定されるとなかなか行きづらい。いつでも受け入れてもらえる今の方がいいのではと思う。

評議員： 勤務時間と自らの授業準備との関わりを考えていくと、先生方の思いと生徒の動きとのギャップを埋める手立てを考える必要がある。

3 諸連絡

終了